

学年	教科等	単元名	日時
第6学年	体育科	先生がアーティスト* ₁ を連れてきた!	平成30年2月2日(金)4校時
本実践の主張	アーティストという「生きた教材」を用いて、アーティストに任せきりの授業を仕組みることで、子どもの表現学習への意欲はきっと高まります。		

BEFORE

*1 振付家：豊福彬文さん（コンテンポラリー・ダンスカンパニー「んまつー波斯」）
 *2 本単元のダンス教材は、宮崎大学教育学部高橋るみ子准教授と「んまつー波斯」が考案したものです。

先生 これから「表現」の学習が始まるな。
 より効果的な指導をしたいな…。

アーティストさん、
 授業に来てください!

アーティスト
 分かりました。
 打合せをしましょう。

先生 学年、人数、時間、子どもの実態
 指導のねらい、配慮を要する子ども
 役割分担の確認 等

アーティスト ←
 ダンス教材の説明
 活動場所・機材等の確認
 子ども・職員・保護者への事前連絡（周知）のお願い 等

START!

先生 今日は、アーティスト「んまつー波斯」の豊福さんに来てもらいました!

みんなと「んまつー波斯」さんとの初めての授業は…
 4年生のときでしたね。5単位時間の単元の最初の時間
 です。どんな1時間になるのか、楽しみだね。

こんにちは。豊福です。
 4年生のとき以来ですね。
 よろしくお願いします!

アーティスト

先生 豊福さん、今日は、どんな学習をしますか?

アーティスト

先生



はい、〇〇さん。
 【子どものイメージ】
 こっそり 忍び足 音がしない
 赤外線 黒のイメージ クール
 大変だけど落ち着いている 等

今日は、「スパイ」をするよ。
 みんなの「スパイ」のイメージ、教えて!

なるほど、おもしろいね。
 みんながこの時間に
 めざすのは
 「エリートスパイ」!



先生



目を閉じて…
 「ドレミファソラシ」のなかから
 1つ選んで、手を挙げてね。
 「ド」の人? 「レ」の人?

グループ分けは
 先生、お願いします。

じゃあまずは、
 この動きから…

先生



「侵入」の場面を
 グループで
 話し合おう。
 どこに侵入する?



通してやってみよう!

進行方向とは反対側をねらって!
 「ももクロ」のようにジャンプして!
 床の隙間をねらって打つよ!



先生 今日の授業をやってみて、どうでしたか?

【子どもの感想】・これまでの「表現」と違って、おもしろかった。
 ・いつも使わない筋肉を使った。・もう一回踊りたい!

それぞれが思い思いに動けるようになって、素敵でした!もう、ブラボー!!

アーティスト
 みんなの
 動きがガラリと変わったね。
 すごくおもしろかったです。

GOAL!

○ 指導計画（5時間）

- (1) アーティストとの身体表現ワークショップをする。—————1時間
 (2) 郡の課題に挑戦する。—————4時間

○ 本時の目標

外部指導者との授業により表現の学習を想起し、これから始まる表現への意欲を高めようとする。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アーティスト（生きた教材）との出会い <ul style="list-style-type: none"> ・ 僕たち、こんな子どもたち ・ 6年3組って、こんな学級 <p>2 本時学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アーティストとの授業の位置付けの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5時間単元の導入（第1時） ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「んまつーポス」身体表現ワークショップを楽しもう。 </div> ※ 本時のダンス教材によって変更することもある。 <p>3 ダンス教材に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アーティストと一緒に <ul style="list-style-type: none"> ※ 導入で、子どもの実態と教師の期待している効果を理解したアーティストが、本時に適していると判断したダンス教材を提示する予定である。 <p>4 学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもから ・ 教師から ・ アーティストから 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部指導者との授業をより効果的なものにするために、子どもの実態についてアーティストに伝える導入の時間を大切にしたい。教師は、次のような実態を伝える予定である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の雰囲気 ・ 体育科学習の様子 ・ 他教科等の様子 ・ グループ学習の様子 等 ○ 外部指導者との授業の、単元における位置付けを確認する際に、本授業の目的や期待している効果について教師の考えを伝えることで、子どもが本時の目的意識を明確にもてるようにする。加えて、アーティストが教師の授業のねらいを理解する時間となることも期待している。 ○ ここからは、敢えてアーティストに任せきりの授業にしていきたい。教師は、授業のコーディネーターとして、次のマネジメントを行うことで、アーティストと子どもの活動が効果的に進むようにしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの理解度、挑戦意欲等の実態把握 ・ 子どもの思いや困り感等をアーティストに伝達 ・ 場の安全や時間の管理、助言 ・ グループینگ ・ アーティストからの要望への対応 ○ 子どもの感想を引き出すだけでなく、教師やアーティストも含めた三者で学習をふりかえることで、それぞれの立場から授業の効果を検証する時間としたい。三者によるふりかえりは、アーティストとの本時の授業を子どもなりに意味付ける、大切な時間になると思われる。

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

これからの表現の学習が楽しみになってきたな。次は、どんな学習をするのだろうか？

【関心・意欲・態度】

